

チームで

## Challenge千代田

令和4年1月

第10号

<http://www.chiyoda-e.kofu-ymn.ed.jp/>

甲府市立千代田小学校  
甲府市下帯那3034-2

電話：055-251-8059

FAX：055-251-8067

発行：校長 廣瀬 正純

### コロナ感染症対策

甲府市の小中学校の感染状況を見ていると、昨年の夏休みに入るあたりまでは、子供の感染者はほとんどないことがわかっています。家族が感染しても子供は感染しなかったということも多かったようです。ところが、夏休みの後半に大人の感染者数が増加したことで、感染する子供もでてきます。(変異株の影響も大きいと考えられます。)けれど、甲府市内の複数の学校で感染者が出るほどではなかったのです。

今回の感染状況を見ていると、複数の学校で感染者が出ているようです。(学校内の感染ではなく、感染経路がわからない状況が多いようです。) 県の感染者の情報を見ても、10歳以下・10代の感染者が多いことがわかります。この状況やニュースなどの情報から考えられるのは、子供達にも感染する変異株となっていること、感染力が強く、感染スピードが速いことです。

1月26日の山梨日日新聞の記事や他の国の感染状況からオミクロン株の特性を見てみると、オミクロン株は他の人にうつるまでの日数が約2日(デルタ株の5日と比べて短くなっている)であることが、感染のスピードにもつながっているが、その2日間の接触を抑えれば、感染者の数が減るスピードも速いのではないかと思います。確実な情報ではありませんが、過去の感染者数の変化を見ても、感染者が増加する時期と減少する時期が一定の周期でくることがわかっていますので、今この時期は、感染対策を徹底して、感染しないようにする時期であると思います。

2020年の12月にNHKの番組で、東京大学大学院の大澤幸生教授が「ステイ・ウィズ・コミュニティ」という考えを提案されていました。感染症が拡大する中で日常生活をどう送るのかという問題の答えになるのではないかと思います。(第3派の時の話ではありますが)

考え方は

「ステイ・ウィズ・コミュニティ」とは、家族や親友、恋人、職場の同僚など、一人ひとりにとっての最も基本的な「コミュニティ」を大切にしながら、その「コミュニティ」の外にいる人との接触はできるだけ避けるという考え方です。

いつも会う人と会っている限りは感染のリスクは大きくならないが、1週間に違う人との接触の機会が、自分の「コミュニティ」の人数と同じ人数以上になると、突然、感染拡大のリスクが、大幅に上昇するというのです。自分のコミュニティが8人だとすると、1週間にコミュニティの外にいる人8人以上と接すると、感染拡大が急速に進むおそれがあるというのです。

学校の子供達で具体的にいうと、家族と仲の良い友達と行動していると感染のリスクはあがらないけれど、1週間の内にそれ以外の人たちとの接触が増えると感染の危険が増すということです。

大きな学校でも、子供が接触するのが担任の先生と仲の良い友達であるならば、危険は大きくならないが(感染力が強くなっていることは考えなければなりません)、クラス内での交流や他のクラス

や学年での交流があれば、感染者数は増えるということです。

千代田小学校は小人数ですが、学年を越えて仲が良く、また、教職員も全ての子供達と接す場面があることなど、接触する人数が一概に少ないわけではないことなど心配な部分があり、万一を考えて他校と同じように分散登校の措置をとりました。

この分散登校のなかでも、対策として

- ①預かりの児童と登校の児童との接触（A Bグループの子供の接触）する機会はなくしていきます。
- ②教職員もA Bにグループ分けし、できる限りAグループに接するのはAグループの先生、Bグループに接するのはBの先生としていきます。

ただし、感染対策を取っても感染する児童・保護者・教職員がでないとは限りません。

感染者した方に基礎疾患があれば重症化の可能性があります。また、基礎疾患がなくても重くなる可能性があります。

濃厚接触者となると学校・職場は休みを取ることになります。職場によっては、濃厚接触者でなくても待機するよう指示が出ることもあると思います。

誰にとっても不安で心配なことであると思います。

コミュニティーというという言葉がありましたが、感染された方ができると感染された方だけでなく周りの方の生活にも影響が出るとは思いますが、感染された方が非難されないようなコミュニティー（社会）を、助け合いのできるコミュニティー（小学校）を子供達が作れるように、また、コミュニティーの大切さを感じられるように、ご家庭でも協力をお願いします。

## 換気対策

北海道で行われている換気対策を千代田小学校では取り入れています。1月に入り、さらに確実なものにするために学校医（薬剤師）の先生に二酸化炭素の濃度を測定しながら換気の状態を確認していただきました。先生からは

「千代田小の換気対策は徹底されている。寒くならないように子供の体調も重視して、寒いときは閉める窓を増やしても対策としては充分」であることを言われました。また「千代田小学校の換気対策は自分の勉強にもなる」とお褒めの言葉をいただきました。寒い時期が続きます。着るもので調整できるようご家庭でもご協力をお願いします。

## 授業時間について

令和3年度の千代田小学校の授業の時数は、年度の初めに計画するのですが、年度頭書の計画では余剰時間（文科省で決められている時間数より上回っている時間）が、最も少ない1年生で76.5時間オーバーとなっています。（これは他校と比べると珍しい数字です。普通は文科省で決められている数字程度です。）感染症対策で分散登校とはなりますが、授業の進み方に関しては学校でも、その年に習うべきものはその年度内に終われるように工夫していきます。

年度のまとめの時期、また、感染症に対する心配などで、子供達も不安に思うことが多いと思います。心配なこと等ありましたら、学校へ連絡をお願いします。